

十勝圏複合事務組合第1回総合教育会議

1 平成29年10月24日火曜日 15時～15時45分

総合教育会議を帯広市役所10階第3会議室に召集する。

2 本日の出席者

組合長 米 沢 則 寿

教育長 嶋 崎 隆 則

教育委員 伊 藤 登

教育委員 笹 原 博

教育委員 久 門 好 行

3 本日の議事日程

(1) 十勝圏複合事務組合総合教育会議の決定

(2) 十勝圏複合事務組合教育大綱の策定

(3) 意見交換

(4) その他

事務局
(進行役)
組合長

十勝圏複合事務組合総合教育会議を開催させていただきます。まず、十勝圏複合事務組合、米沢則寿組合長よりごあいさつを述べさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、十勝圏複合事務組合では、昨年、新教育委員会制度に伴う教育長を選任したところであります。そして本日、当組合の総合教育会議を設置し、教育大綱を策定するため、皆様にお集まりいただきました。

ご承知のように、当組合の教育委員会には、帯広高等看護学院、十勝教育研修センターという二つの教育機関があり、管内19市町村が手を携えて取り組んでいるところです。

本日もご審議いただく教育大綱につきましても、この二つの教育機関を中心に据えたものとして策定してまいりたいと考えており、原案を作成いたしました。またせっかくの機会でありますので、皆様と意見交換をさせていただきたいと思っております。

限られた時間ではありますが、日頃、市町村教育に携わっておられる皆様のお立場から、十勝圏複合事務組合としての教育活動に対し、忌憚のないご意見をいただければと思います。

本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

事務局
(進行役)

それでは次第に移らせていただきます。

本日の総合教育会議は、十勝圏複合事務組合としては初開催のため、本会議設置に係る要綱を決定していただき、決定後、要綱に基づき議長が進行するということとさせていただきます。それまでの間、事務局で進行させていただきます。

では、要綱案につきまして、ご説明させていただきます。

事務局

本案は、管内市町村のほか、他の地域の一部事務組合の例を参考に作成しました。特に、十勝圏複合事務組合としての特徴的な部分は第2条です。十勝圏複合事務組合が共同処理する事務中、教育に関する事務である帯広高等看護学院、十勝教育研修センターに関する事項について、総合教育会議において協議や調整を行うこととしました。その他の部分については、他の事例をもとに、オーソドックスな内容としております。説明は以上であります。

事務局
(進行役)

質問、意見はございますか。

(「なし」の声)

では、原案どおり決定させていただきます。施行年月日は本日でさせていただきます。

では、ただいま決定していただきました十勝圏複合事務組合総合教育会議設置要綱の第4条第3号により、以後の進行は組合長が議長を務めます。

組合長

では、次第の2「十勝圏複合事務組合教育大綱の策定」について、事務局から説明を求めます。

事務局

大綱案の策定にあたっては、他の地域の一部事務組合の例を参考にしました。他の一部事務組合では、共同処理事務を中心に大綱を策定している例が多く、本案の策定にあたっては、当組合の共同処理事務である帯広高等看護学院、十勝教

育研修センターを中心に、大綱案の2番目にありますように「各共同処理事務における方針」として、二つの教育機関の方針を示しました。

それぞれの方針内容は、帯広高等看護学院の場合は、すでに学院として教育目標や方針を掲げており、また十勝教育研修センターの場合は、3年ごとの研修計画策定の際に基本目標や方針を確認しており、これらを改めて大綱に位置付けることとしたものです。

なお、他の一部事務組合では、大綱の期間を定めているものもありましたが、内容が大きく変化することが想定されないことから、また変更の必要が生じた場合には総合教育会議を開催して協議することができることから、大半の一部事務組合の例を参考に、期間は特に定めないこととしました。

では、確認のため、全文を朗読させていただきます。

(朗読)

説明は以上であります。

組 合 長

ただいま説明がありましたが、質問、意見はありますか。

(「なし」の声)

では、このとおり決定してよろしいですか。

(「異議なし」の声)

では、十勝圏複合事務組合教育大綱は案のとおり決定いたしました。

次に次第の3「意見交換」に移ります。

ただいま決定いただいた教育大綱については、帯広高等看護学院、十勝教育研修センターの基本目標等が示されています。本日の意見交換では、このうち特に教育研修センターに関連した意見交換をしたいと思います。

教育研修センターでは、基本的には学習指導要領に基づく科目ごとの研修プログラムを組み立てています。このことにより、十勝全体が統一的な視点をもって教員のスキルアップをはかっているわけですが、管内各市町村では、さらに地域特性を活かした教育を展開されていると思います。そこで意見交換では、地域特性を活かした教育と、それに関わる教員の人材育成について、工夫されている点などを中心に情報提供をいただきたいと思います。

浦幌町の久門教育長から順に、各市町の取組み状況をお願いします。

久 門 委 員

浦幌町では平成27年度から小中一貫教育コミュニティスクールに取り組んでいます。その特徴的な部分、特に教員の研修に関わる取組みを紹介させていただきます。

教職員は毎年4月に異動があります。その際、新任の教職員を対象に、ふるさと移動研修会を実施しています。バスで町内の歴史的遺産などを巡り、博物館の学芸員等が講師として説明します。1日も早く、町の特徴に触れていただく取組みです。

また、他の教育機関とのコラボレーションとしての研修を展開しています。

例えば、道立教育研修所が実施しています出前講座というものがあります。これを活用して、昨年度は全教職員を対象に、夏休みの1日日程で小中一貫教育の

講座を実施しました。

また、文部科学省から指定を受けている会社から講師を派遣してもらい、転勤されてきた教職員10名程を対象に研修を実施しています。「プロフェッショナル教員研修プログラム・イン・うらほろ」と銘打ち、小中一貫コミュニティスクールの第2ステージである、地域との連携について研修をしていただきました。

また小中一貫コミュニティスクールを展開するために、浦幌小・中学校と上浦幌小・中学校をそれぞれ浦幌学園、上浦幌学園と称し、小中一貫コミュニティスクール推進委員会を設置しております。この推進委員会には、学習指導部、生徒指導部、うらほろスタイルという三つの部会があり、教職員はいずれかの部会に入っただき、地域の方々とともに取組んでいただいています。

教職員に研修の場を積極的に提供するとともに、地域の人や歴史・文化に触れていただく機会を設け、人づくり、地域づくり、まちづくりという、小中一貫コミュニティスクールの柱をしっかり理解して、取組んでいただくというものです。

嶋崎教育長

帯広市では、中学校14校の学校区を単位として、エリアファミリー構想に取り組んでいます。各中学校の学校区にある保育所、幼稚園、小学校、学童保育（児童保育センター）がエリアとして一体の取組みをしようというものです。家族のように一緒にやってみようということで、エリアファミリーと称しています。

平成22年度から取組みを始め、平成24年度には14の中学校区すべてのエリアで活動がスタートしています。エリアによっては、高校ともつながっています。

エリアでは共通の目標を掲げ、校長先生や園長先生間の管理職での共通認識を深め、教員や保育士、指導員ではそれぞれがオーバーラップするような取組みをしています。相互に訪問し、認識を深めたり、共同で研修会をすとか、行事を一緒に開催するといった取組みです。

年齢を超えた子ども同士の取組みも広がっています。夏冬休み中に中学校の生徒が小学生の学習支援をしたり、また中学生が保育所に行って保育所体験、職場体験をしたりしています。また、小中合同の運動会を開催するなどしています。最近では防災訓練を共同で実施している例も出てきました。

具体的なユニークな例では、大正地区に第七中学校がありますが、七のつく日を、保育所の幼児も小学校の児童も中学校の生徒も、家庭ではテレビを見ないで、家族団らんの日とする取組みをしています。こういった取組みは、兄弟姉妹がいる場合、中学校だけで取組んでもうまくいきません。エリアファミリーであるがゆえにうまくいっている事例だと思います。

こういった取組みを通じて、エリア全体でつながりを深め合って、保育所・幼稚園から小学校、小学校から中学校への進学段階でのギャップをなめらかにしていくことができると考えています。

伊藤委員

清水町では、独自の取組みとして少人数学級を実施しています。道内では小学

校1、2年生は35人学級を実施していますが、町では教員を独自採用して20名以内を目処に実施しています。1、2年生を対象としています。当初心配したのは、3年生になると40人学級となることです。急に人数が増えるとどんな問題が発生するかと心配しましたが、先生たちの指導もさることながら、子どもたちが少人数学級のおかげでしっかりと成長しており、適応力を発揮しています。

また、先ほど帯広市のエリアファミリー構想では、進学段階でのギャップのお話が出ていましたが、本町としても小1プロブレムの解消のため、平成17年度から清水町幼保小連携協議会を設置しています。清水地区と御影地区にそれぞれブロック部会を設置し、先生や保育士が情報交換をしています。小学校入学児童のためのスタートカリキュラムというものを作ったりして、円滑な移行のために幼稚園・保育所と小学校が連携を深めています。成果の現れとして、小学校の入学式するとき、1年生が非常に落ち着いているんです。幼稚園・保育所での遊びの場面と、小学校での学習の場面とをしっかりと区別できるようになっているのです。

しかし、幼稚園・保育所は町立なので職員はあまり替わらないのですが、小学校の教員は転勤があります。このため協議会への教員の出席率は当初は低く、合同研修会を開催した後、交流会を開いても、参加するのは校長先生と教頭先生だけということもありました。少しずつではありますが、教員にも理解が広がってきています。

清水町では英語教育にも力を注いでいます。幼稚園・保育所も含めて一昨年からはAETを2名採用して英語に親しむ、慣れるという視点で取り組んでいます。

小学校では1年生から4年生まで、授業に取り入れています。新しい学習指導要領では、5、6年生に英語授業が入りますが、いい成果がでるのではないかと期待しています。

最後に地域との関係をお話します。町では「教育の四季」という学校教育と社会教育の連携、地域の参加ということに取り組んできました。地域の方が書道や琴、スキー、水泳など様々な分野で子どもたちを教えに学校を訪れます。書道は学校の先生と教え方が違うという話を聞きますが、廊下には立派な作品が展示されています。地域をまき込んで、教育が展開されているものと思います。

笹原委員

広尾町の取組みとしては、中高一貫教育のお話をさせていただきます。本年で12年目となりますが、本来のきっかけは広尾高校の間口維持ということがありました。地元の中学生に地元の高校に通ってほしいという願いでしたが、広尾高校に入る地元生徒の割合はあまり変化していません。しかし、教育効果は高いものと考えています。

広尾高校の生徒が職場体験を発表する場面には、中学生と小学校6年生が参加します。高校生の話を直に聞くということで、子どもたちは刺激を受けています。高校生が中学校を訪れ、何人かに分かれて車座になって高校の魅力や進路について話をする取組みや、高校の先生が中学校で乗入れ授業をするという取組みも実施しています。

中高一貫の取組みをすすめるために様々な部会を設けていますが、最近できた

部会は特別支援部会です。近年、課題を抱える子どもが増えてきていますが、中高に限らず、幼・保・小・中・高連携し、さらに行政の保健福祉や健康センターの職員も参加して、保護者の了解のもと、子どもの成長にあわせてみんなが情報を共有してささえていこうというものです。ひろおサンタランドにあやかって、サンタッチという名称で取組んでいます。これも中高一貫がきっかけで広がった取組みです。

地域にも広がりを見せています。今月のことですが、町内の企業に高校生下宿を建てていただきました。広尾高校には、帯広の子どもたちはあまり来てもらえないのですが、日高管内のえりも町からは毎年、入学生が一定数います。通学が難しく、下宿が求められていましたが、定員10名の下宿ができ、在校生が早速入居したほか、来年の入学に向けて多くの見学が訪れ、来年4月には全室埋まるのではないかと考えています。これも中学校と高校の先生、そして子どもたちが連携して取組んでいる様子を見て、地域の方がまちづくりに参加するひとつの現われだと思えます。

組 合 長

皆さん順にお話いただきましたが、他の方のお話に質問や感想など、ありますか。

久 門 委 員

帯広市のエリアファミリー構想の取組みはすばらしいと思います。

いまは「開かれた学校」の時代ではなく、「地域とともにある学校」という時代になっています。学校だけで教育をするのではなく、地域とともに教育をしていくことが必要だと思います。そのためのしくみづくりがとても重要です。

私も帯広にいた頃、平成19年、20年に学校支援ボランティアという、全道で初めての取組みに携わらせていただきました。エリアファミリー構想は、その延長線上に、市長も一緒になって取組んでこられた成果だと思います。

こういうことをすすめるときには、いきなり「まちづくり」というと、学校側は引いてしまいます。そこで私は、「学校はひとづくりをやってください。町の首長部局はまちづくりをやってください。」と言います。そして相互に連携していくことでうまくいくと思います。

浦幌町の小中一貫コミュニティスクールでは、学校側には町を大好きになる子どもたちを育ててもらふことから入っていきます。それを首長部局がささえる。教育委員会と首長部局との連携が大事だと思います。

組 合 長
嶋 崎 教 育 長

おほめの言葉もいただきましたが。

今年、農村部にある愛国小学校で、市長部局が取組んでいる「フードバレーとまち」とコラボレーションする取組みをしました。小学生が作った野菜や地域の野菜を食材に、プロの方が調理をし、その様子を子どもたちや地域の方に見ていただき、食べていただきました。自分たちの作った野菜が様々な料理になり、食材の味も引き立っていることで、地域産業である農業を再認識する。

こういった取組みは始まったばかりですが、地域の「宝」を見出し、つなげていくことが大切と思っています。

組 合 長

昔は地域の人たちがよその子どもであっても口を出し、自然に地域全体で子育て

てしていたと思いますが、今の時代は「地域で子どもを育てる」とわざわざ言わなければ、なかなか地域が参加しない。「エリアファミリー」とか、色々と言葉を変えながらアクションを継続していく必要があると思います。

伊藤委員

帯広市では現在、小中学校の適正配置ということで、統合についても議論をされていますよね。エリアファミリー構想の取組みもその一助となると思います。

嶋崎教育長

統合となった場合、この取組みがあることよってスムーズに行くということはあるかもしれません。

地域参加というとき、町内会のご協力が大きいのですが、中学校の校区と連合町内会のエリアが違うので、参加しづらいというご意見もあります。でも考えようによっては、複数の学校と関わりが持てる、チャンネルがいくつもあるということだと思います。

さらに地域の方々が参加しやすいしくみが必要ということで、昨年度からは「こども学校応援地域基金」という取組みを始めました。地域では様々な形で子どもたちに関わっていただいています、それらの団体や個人が一緒になって参加できるような取組みです。

組合長

久門委員が先ほどおっしゃったように、まちづくりに参加してほしいと言ってもなかなか難しい。参加しやすいしくみ、開いていくしかけが必要だと思っています。金銭的な問題も生じるでしょう。そこに地域の方々や企業が参加するしくみを作り、様々な人が集い、工夫しながら取組んでいくという形が作られていくものと期待しています。

伊藤委員

学校統合を考えた場合、子どもたちの通学距離が問題になります。清水町では、学校のみならず、保育所の統合でもスクールバスの運行が課題となりました。人数の問題もあって、ジャンボタクシーで送迎している地区もあります。

嶋崎教育長

教育環境を整えるという観点から、経費がかかっても取組んでいく必要がありますね。

組合長

先日、啓北小学校の50周年記念式典で学校を訪れた際、校長先生とお話したのですが、登下校の道すがら、何かを発見したり、学んだりすることが色々ある。また、学校に間に合うように家を出たり、時間調節をするということも大切だというお話でした。

笹原委員

農村部の子どもたちは、都市部に住んでいる子どもたちと比べて歩かないのは、スクールバスで通学することも大きいと思います。

組合長

かつて地域で子育てするのが自然だったこと、農村部の子どもたちが周辺の野山を駆け回るのが自然だったことが、時代の趨勢により変化し、いままで経験したことがない世界になってきているのかもしれない。

そういった流れの変化をしっかり見て、それぞれの立場で知恵を出し合っていくことが必要だと思います。

さてそろそろ残り時間が少なくなってまいりました。委員の皆様から、各市町の特徴ある取組みについてお話いただき、またご意見をいただきましたが、十勝圏複合事務組合において、今後の教育研修センターのあり方を考える際、市町

村の動きや環境の変化についても踏まえていくことが必要と思いました。

様々な研修、情報収集の場として、教育研修センターという場を活用していただくことも必要と思っています。皆様からいただいたご意見を参考に、事務局において検討させていただきます。

では、その他について特になければ、これで十勝圏複合事務組合第1回総合教育会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。